

一般社団法人日本内科学会令和3年度第3回理事会議事録

1. 日時 令和3年12月21日(火)14時～16時10分

2. 場所 東京都文京区本郷3丁目28番8号
一般社団法人日本内科学会事務所会議室を開催場所とするWeb会議

3. 理事総数 20名 出席した理事の数 19名

出席者 [理事]

矢富 裕(理事長)、張替秀郎(副理事長)、黒川峰夫、南学正臣(副理事長)、服部信孝、福田恵一、森屋恭爾、駒津光久、有馬 寛、下畑享良、中本安成、稲垣暢也、塩島一朗、吉治仁志、山本一博、日浅陽一、下田和哉、筒井裕之、三谷絹子の19名

[監事]

梶波康二、持田 智の2名

[その他出席者]

小室一成(第120回講演会会長)、妹尾 浩(第119回講演会準備委員長)、森田啓行(第120回講演会準備委員長)、横山彰仁(専門医制度審議会会長)、高橋和久(日本内科学会雑誌編集主任)、大平弘正(Internal Medicine 編集主任)、須永眞司(専門医部会会長)、秋下雅弘(日本医学会連合 領域横断的なフレイル・ロコモ対策WG委員)の8名

欠席者 [理事]

奥村利勝の1名

[監事]

北園孝成の1名

4. 議事の経過及び結果

矢富 裕理事長が議長となり、次の23議案について逐次審議することとなった。

第1議案 第119回日本内科学会講演会関係事項

- (1) 一般演題選定について
- (2) 参加費：10,000円
- (3) 関連会議等について

稲垣第119回講演会会長より、サテライトシンポジウムについて内容が決定した市民公開講座、働き方改革・ダイバーシティシンポジウムや社会医学系専門医協会との合同シンポジウム等について報告があり、了承を得た。「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2022 京都」については演題募集期間と今のところ対面での発表形式を考えているとの報告とプログラムの内容について説明があり、了承を得た。講演会の一般演題については選定状況、発表形式、プレナリーセッションについて説明があり、了承を得た。また、参加費は従来通り10,000円とすること、関連会議の日時、場所等について報告があり、了承を得た。なお、評議員会懇親会については新型コロナウイルス感染症の今後の感染状況を踏まえて判断したいとの発言があった。

第2議案 定例評議員会について

議長より、配布資料の通り日時及び予定議案の報告があり、了承を得た。

第3議案 令和4年定時総会について

議長より、配布資料の通り日時及び予定議案の報告があり、了承を得た。

第4議案 専門医制度審議会関係事項

横山審議会会長より、①試験委員会報告、②救急委員会報告、③令和4年度の内科研修プログラムへの応募状況について、④認定・更新委員会報告、⑤研修施設年次報告書について、⑥J-OSLER 検討委員会報告、⑦J-OSLER 病歴要約評価および研修実績における処分について、⑧医師法第十六条の十に規定する厚生労働大臣から日本内科学会への意見書への回答について報告があり、了承を得た。また、J-OSLER 病歴要約評価および研修実績における処分については、処分の内容について説明の後、原案の通り処分することで承認を得た。

第5議案 専門医部会関係報告

須永専門医部会会長より、承認依頼事項として役員の交代について説明があり、承認を得た。また、令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画等について報告があり、了承を得た。

第6議案 学術集会運営委員会関係報告

山本委員長より、本年度委員会の報告があり、了承を得た。小室第120回講演会会長からは、第120回講演会の開催テーマを「新しい医学を協創する内科学」としたとの報告があった。また、開催概要と決定したプログラム、特別講演とパネルディスカッションについて報告があり、了承を得た。

第7議案 生涯教育委員会関係報告

筒井委員長より、本年度委員会報告と本年度の生涯教育講演会の開催状況、2022年度生涯教育講演会の開催計画について報告があり、了承を得た。また、本部主催生涯教育講演会について、今後はWeb配信が主流となることから2023年度開催分より開催回数を従来の各セッション2回から各セッション1回の開催へ変更すること、支部主催生涯教育講演会について

は内科専門医制度に係る出席時間の管理、開催支部事務局の負担軽減も鑑み、次々年度からは委員会にて管轄すること、次年度から事務的な業務（参加受付、当日の映像配信、オンデマンド配信等）については本部システムを利用することについて説明、提案があり、各々承認を得た。日浅理事からプログラムの内容については各支部で企画することが出来るのかとの質問があり、プログラムについては支部の独自性が尊重されるものであり、運用面について委員会で管轄するとの回答があった。

第 8 議案 学術誌編集委員会関係報告

(1) 日本内科学会雑誌編集委員会報告

高橋和文誌編集主任より、本年度委員会の報告、日本内科学会雑誌の本年度の発行状況と今後の特集内容や掲載予定について報告があり、了承を得た。

(2) Internal Medicine 編集委員会報告

大平英文誌編集主任より、Internal Medicine の本年度の Online Journal の発行状況と投稿数及び採択率について報告があり、了承を得た。また、論文投稿数の増大に伴い、投稿数の増えた分野の編集委員の負担軽減や査読の円滑化の観点から編集委員を増員したいとの説明があり、了承を得た。

第 9 議案 総務委員会関係事項

(1) 本年度委員会報告

議長より、本年度委員会の報告があり、了承を得た。

(2) 行政処分にかかる会員の処分について

議長より、厚生労働省の行政処分（令和 3 年 10 月 8 日発効）を受けた会員 1 名に対して処分案の通り処分したいとの提案があり、承認を得た。

第 10 議案 利益相反委員会関係報告

南学委員長より、日本医学会の COI 管理ガイドラインの改定が行われており、本会の「医学系研究の利益相反（COI）に関する共通指針」についてもガイドラインに沿った形で一部改定を検討しているとの報告があった。改定案について説明の後、意見や気付いた点があったら事務局まで寄せていただくよう確認をお願いした。なお、改定案については次回の理事会へ最終案を提出したい。また、張替副理事長から講演スライドの企業による事前チェックについて、指針に記載の文章を理由に断ってよいかとの質問があり、断る理由を演者側に与えているもので、一方的に受け入れ続ける必要はないとの意思表示と理解しているとの回答があった。

第 11 議案 支部関係報告

(1) 支部代表者会議報告

中本支部担当理事より、本年度の支部代表者会議について報告があり、了承を得た。

(2) 地方会参加費の変更について

中本支部担当理事より、地方会の開催形式がハイブリッド形式へ移行するにあたり、現状の支部助成金と地方会参加費収入のみでは開催費用を賄いきれないとの説明の後、事務局から支部の負担軽減と収入増の両面から提案があったとの報告があった。一つは事前参加登録システムを本部の既存システムに一本化して支部負担と費用を軽減すること、一つは地方会の参加費を現状の 1,000 円から 2,000 円に値上げすることの提案があったとの説明があり、各々承認を得た。

第 12 議案 令和 4 年度事業計画について

南学総務担当理事より、配布資料の通り事業計画の説明があり、承認を得た。

第 13 議案 令和 4 年度収支予算について

黒川財務・組織管理担当理事より、配布資料の通り収支予算の説明があり、承認を得た。

第 14 議案 名誉会員推薦について

議長より、令和 4 年 4 月 1 日までに満 70 歳を迎える功労会員の中から、配布資料の通り 14 名の方を来年 4 月に開催の定時総会において名誉会員に推薦したいとの提案があり、承認を得た。

第 15 議案 功労会員推薦について

議長より、令和 4 年 4 月 1 日までに満 65 歳を迎える会員の中から、配布資料の通り 20 名の方を来年 4 月に開催の定時総会において功労会員に推薦したいとの提案があり、承認を得た。

第 16 議案 事務局長交代の件

議長より、来年 2 月末日に任期満了を迎える青木事務局長の後任として、事務局次長である三浦 隆氏の推薦があり、満場一致により承認を得た。

第 17 議案 今後の事務局運営方針について

事務局より、学会業務のデジタル化推進に向けた今後の事務局の運営方針について説明があり、了承を得た。

第 18 議案 新入会者の件

議長より、本年 9 月 9 日から 12 月 20 日までに 293 名の入会者があったとの報告があり、了承を得た。

第 19 議案 会費未納による会員資格喪失の件

議長より、定款第 12 条第 1 項第 5 号の会費未納による会員資格喪失の対象件数が 630 名との報告があり、年度末までに会費の納入がない場合、来年 4 月の定時総会に会員資格喪失者として諮ることです了承を得た。

第 20 議案 海外の学会との提携・協調について

議長より、内科学会はサブスペシャルティ学会と比べると海外の学会との提携・協調が不足しているところがあり、本件について意見等があれば寄せていただきたいとの発言があった。

第21議案 日本専門医機構関係報告

事務局より、専門医広告について、令和5年度の専門医養成数について、サブスペシャリティ領域についての報告があり、了承を得た。

第22議案 次期理事長の選出方法について

議長より、次期理事長の選出方法について説明と確認があり、了承を得た。

第23議案 その他

(1) 日本医学会連合「領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進」について

秋下ワーキンググループ委員より、日本医学会連合の「領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進」にかかる取り組みについて説明があり、了承を得た。

(2) 病理報告書に関する件について

議長より、前回の理事会の際に質問のあった「病理医が詳細に作成した病理報告書をそのまま遺族に渡すことについて注意喚起を行っているか」について日本病理学会へ確認したところ、「病理解剖報告書の最後にある、病理医の「考え」に関しては「考察」という文言で統一し、十分に臨床担当医との間でコンセンサスを得た上で病理医の考えを記載する（病理解剖は臨床と病理による「相互検証」であり、カンファレンス等できちんと議論することが前提）」のコンセンサスについて来年3月の病理学会理事会で報告し、4月の病理学会総会にて会員に周知するとの回答が寄せられたとの報告があった。また、内科学会が回答したアンケート結果から、約4%の臨床担当医師が、説明なしでご遺族に病理解剖報告書を渡していることから、ご遺族に病理解剖報告書をお渡しするときは原則、臨床担当医師からのご説明の上、渡していただきたいとの要望があったとの報告があった。南学副理事長から前回理事会の際の病理学会の説明では原則的に患者へ渡して欲しくないとになっていて今回の回答と異なっているとの指摘があり、再度確認することとした。

(3) 第29回国際高血圧学会（ISH2022）からの後援依頼について

議長より、第29回国際高血圧学会から後援依頼があったとの説明があり、後援することで承認を得た。

(4) 「第32回日本臨床工学会」への後援依頼について

議長より、日本臨床工学技士会から第32回日本臨床工学会への後援依頼があったとの説明があり、後援することで承認を得た。

(5) 今後の理事会等開催予定

議長より、今後の理事会等開催日程について報告があり、了承を得た。

以上により本日の議事を終了し、議長の閉会の挨拶のあと散会した。

令和3年12月21日

一般社団法人日本内科学会理事会 議長（理事長） 矢富 裕

議事録署名人（監事） 梶波 康二

議事録署名人（監事） 持田 智